



上田市議会議員

佐藤のりゆき

佐藤 論 征

後援会報

12月定例会報告

2014年12月定例会号

佐藤のりゆき後援会
発行責任者 森山 和
上田市真田町長 3576-1
TEL 0268-72-5666
FAX 0268-72-2622

平成26年度
上田市議会12月定例会

上田市議会定例会が11月25日から12月15日の日程で開会されました。一般会計補正予算、条例案など市より提案がなされ、可決されました。

衆議院総選挙関連予算

衆議院解散に伴い、12月14日に行われた衆議院総選挙関連補正予算5812万円が提出され、定例会初日に即日可決されました。

いじめ問題対応3組織新設

条例案は8件でいじめ問題対策連絡協議会等条例が新設されました。いじめ防止対策推進法に基づき、「いじめ対策連絡協議会」、「いじめ問題調査対策委員会」、「いじめ問題再調査委員会」の3つの組織が新設され、市教育委員会などの諮問（意見を求めること）により調査審議をおこないます。

廃止条例

NHK大河ドラマ「真田丸」放映により増大する観光客対応として駐車場整備を行うにあたり、取り壊されるものが決まっている勤労青少年ホームに関する勤労青少年ホーム条例と、武石地域で過去有線電話放送が廃止された際に、代替として採用していたNTTのオフトーン通信が今年度をもってNTTでの運用が廃止となる

ことから、武石オフトーン通信施設条例が条例廃止となることとなりました。

【市長提案】

駅前イルミネーション

12月8日から点灯が始まった上田駅前イルミネーションについて、デザインを真田氏をイメージとした赤と新緑の緑を基調とした光に変更。来年3月の北陸新幹線延伸を踏まえ、来年3月末まで点灯を延長することとした。

資源循環型施設

建設対策連絡会との第1回意見交換会において、第2回の開催が合意されていたのにも関わらず、連絡会側から第2回の開催取り止めの突然の申し入れがあったことについて、市長は、「第1回の建設対策連絡会との意見交換会については、真摯に意見交換会をさせていたでいたと考えており、改めて地域の皆様の考えをお聞きするとともに、現在、意見交換会の再開をお願いしている」と市長提案のなかで説明がありました。これを受け、連絡会から、第2回の開催に向けて、早速開催に向けての検討について表明がありました。今後、建設検討地の地元の皆さんのみならず、上田市全体の問題として市民の皆様に関心を持っていたいただき、考えていかなければいけない問題です。

資源循環型施設建設

現在、上田地域広域連合（上田市、東御市、青木村、長和町、坂城町）においては、上田クリーンセンター・東部クリーンセンター・丸子クリーンセンター、3か所のゴミ焼却施設があります。いずれも施設の老朽化が進み、早急に新たな施設建設が必要となっており、公募などにより多くの場所について検討がなされましたが、様々な問題から候補地に適した建設場所がみつからず、現在の清浄園用地に建設する旨の検討がなされております。現在建設が検討されている地元の皆様にご理解をいただけるよう上田地域広域連合（母袋創一連合長）が働きかけを行っております。現在のゴミ焼却施設は既に更新時期を迎えています。未だ新施設建設が決まらないなか、現在の施設を大切に使うとともに、できる限り焼却ゴミを出さないようにするためにも、現在



建設が検討されている
し尿処理施設 清浄園

上田市で進めている、雑紙回収、生ごみ乾燥による生ごみ減量など、上田市全体の問題ととらえ、各ご家庭でゴミ減量化の取組みをしていただきますようお願いいたします。

上田市の

ゴミ減量化への取組み

上田市では、資源循環型社会を目指しています。家庭から排出される生ごみの減量化や、減量化機器の普及を促進するため、現在、通風乾燥型生ごみ処理機モニター調査を現在実施しています。この装置は生ごみの水分を乾燥させることにより、生ごみの量を減らす装置で、100名のモニターの方に平成27年2月まで実際に使用していただき、データ収集を行っているところです。その他には、生ゴミ減量化機器への補助金制度もありますので、機器の購入も検討してみたいかがでしょうか。

生ごみ減量化機器に対する
上田市の補助金

対象機器	補助金額
生ごみたい肥化容器（コンポスト、EM 密閉容器等）	購入価格の2分の1以内 （100 円未満切り捨て） 限度額 3,000 円
生ごみ処理機（内部にヒーター及びかくはん装置を組み込んだ機器）	購入価格の2分の1以内 （100 円未満切り捨て） 限度額 30,000 円

上田市議会12月定例会一般質問

《真田地域簡易水道統合事業ならびに湧水利用について》

平成26年11月27日につちや湧水、滝の入湧水の水源地である大日向自治会と上田市との間で両湧水を水道事業の水源とするための基本合意書が交わされ、いよいよこの日本一の湧水を上田市の水源として利用できることとなり、真田地域簡易水道統合事業が本格的に始動することとなりました。これは、水源地の渋沢、大日向地区の皆様がこの日本一の湧水を次世代のために利用してもらいたいという強い思いから今回実現したもので、改めまして渋沢、大日向地区の皆様にご敬意を表するものであります。今回このつちや・滝の入湧水を水源とする「真田地域簡易水道統合事業ならびに湧水利用」について一般質問を行いました。質問により明確になりました事項につきまして、裏面にまとめさせていただきました。

真田地域簡易水道統合事業 つちや湧水・滝の入り湧水利用計画

